



# 次代を担う

# ひと・まち・産業

公益財団法人 尼崎地域産業活性化機構 編

■A5判244頁/定価:本体2,000円+税 ★送料実費

## これまで歩んできた100年と

### これからの100年に向けて

誕生から100年、産業都市として多大な役割を担ってきた尼崎市の足跡を振り返り、また、将来に向けた展望について考察。様々な課題と向き合いながら、地域活性化を進める尼崎市での取組み事例を数多く収録。尼崎市市制100周年をテーマにした、尼崎地域産業活性化機構編集の叢書・第3号。

## ■「叢書第3号の発刊にあたって」より

1889(明治22)年、尼崎の旧城下辰巳町に近代産業としての尼崎紡績(現ユニチカ)が設立された。尼崎はこの尼崎紡績の立地以降、実質的かつ先導的に日本を支える工業都市としてその役割を担うことになる。その後、1916(大正5)年、人口3.2万人余の尼崎市が誕生することになる。2016(平成28)年、尼崎市は市制100周年を迎えた。尼崎の100年は、日本の産業の100年という過言ではないが、産業都市を支える市民のくらしやまちづくりの100年でもある。AIR叢書第3号では、尼崎市市制100周年を特集テーマとした。(中略)

本書では、現代の尼崎市が直面する諸課題に加え、次の100年に向けた展望をも論じていただいている。(中略)本特集が、尼崎のこれからの100年を考える手掛かりとなれば幸いである。

## 主要目次

### 巻頭論文

I 都市の100年、そしてその未来 ——ガバナンスの進化と深化——  
加藤 恵正 公益財団法人尼崎地域産業活性化機構 理事長  
兵庫県立大学政策科学研究所 教授

### 特集に寄せて

II 尼崎市制100周年 ～次代を担うひと・まち・産業～  
稲村 和美 尼崎市長

### 特集論文

III 次代に引き継ぐまちづくり  
福島 徹 兵庫県立大学環境人間学部 教授

IV 市制100周年おめでとうございます  
——会議所の取組みと将来への展望——  
吉田 修 尼崎商工会議所 会頭

V 地域創生の時代の産業振興  
——強みを活かし、個性豊かに発展する——  
松田 直人 兵庫県 阪神南県民センター長

VI 山は動いた  
徳田 耕造 尼崎市 教育長

VII 尼崎のひと・まち・産業100年史  
——製造業の現場を支えた人々の足跡——  
辻川 敦 尼崎市立地域研究史料館長

### 尼崎の動き

VIII 商店街の現状と三和市場の挑戦  
三谷 真 よろず相談室三和サロン(三和市场内)共同経営者  
元関西大学商学部 准教授

IX 阪神電気鉄道による沿線活性化の取組み  
浅野 陽一 阪神電気鉄道株式会社  
経営企画室 沿線活性化担当 課長

X もっと面白い尼崎  
若狭 健作 株式会社地域環境計画研究所 代表取締役

XI 76年をかけたモノ作り——尼崎市制100周年に寄せて  
片谷 勉 株式会社特発三協製作所 代表取締役社長

XII オール尼崎による創業支援への挑戦  
岸本 浩明 尼崎市経済環境局 経済部長  
前公益財団法人尼崎地域産業活性化機構 常務理事

XIII 「兵庫県立尼崎総合医療センターの整備・運営」に伴う  
地域への経済波及効果  
小沢 康英 神戸女子大学文学部 准教授  
芦谷 恒憲 兵庫県企画県民部統計課 参事

### 研究報告 公益財団法人 尼崎地域産業活性化機構

XIV 創業事業所の事業継続性に対する支援のあり方  
——尼崎市におけるアンケート調査の結果——  
櫻井 靖久 阪南大学経済学部 専任講師  
元公益財団法人尼崎地域産業活性化機構 調査研究室

XV 経済センサスからみた尼崎の小地域の特性Ⅶ  
國田 幸雄 元公益財団法人尼崎地域産業活性化機構 調査研究室  
井上 智之 公益財団法人尼崎地域産業活性化機構 調査研究室

XVI 尼崎市の土地利用変化に関する定量分析Ⅱ  
——2008年～15年の工業用地の動向を中心として——  
井上 智之 公益財団法人尼崎地域産業活性化機構 調査研究室

キリトリ線

下記のとおり申し込みます。

申込日 平成 年 月 日

(978-4-433-40606-6)

## 次代を担うひと・まち・産業

ご住所(〒 ) 電話( ) - 番

貴(社)名 ⑧

部署名( 部 課) 担当者名( )

### ■発売所■

株式会社 清文社

〒530-0041

大阪市北区天神橋2丁目北2-6  
大和南森町ビル

TEL.06-6135-4050

FAX.06-6135-4059

http://www.skattsei.co.jp